

産地魚市場の水揚状況について

1 水揚量の現状

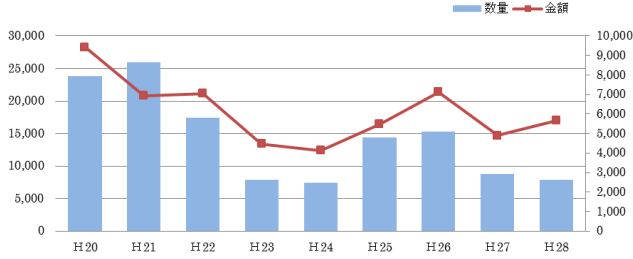
震災前と比較した平成28年の漁獲量は、魚種によって大きく異なっているが、サケ、サンマ、スルメイカ等の主要魚種の水揚量の減少により、全体の水揚量も大きく減少している。

産地魚市場の水揚の現状

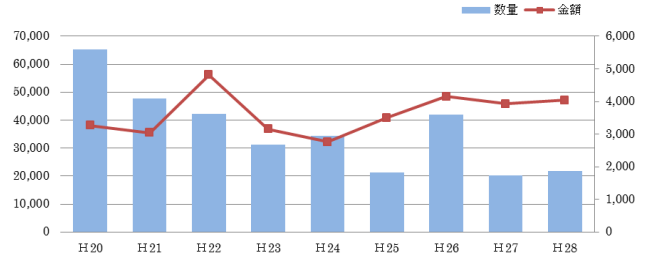
(単位：トン、百万円、円/Kg、%)

魚種		H20-22平均①	H27実績	H28実績②	②/①
全魚種	数量	176,769	114,230	96,020	54
	金額	23,438	19,893	20,408	87
	単価	133	174	213	160
サケ	数量	22,464	8,781	7,894	35
	金額	7,815	4,898	5,676	73
	単価	348	558	719	207
サンマ	数量	52,240	20,453	21,872	42
	金額	3,515	3,968	4,069	116
	単価	67	194	186	278
スルメイカ	数量	18,547	7,991	4,545	25
	金額	3,326	2,081	2,540	76
	単価	179	260	559	312
イサダ	数量	17,380	13,818	8,348	48
	金額	789	441	251	32
	単価	45	32	30	67
ケガニ	数量	99	50	45	45
	金額	130	107	92	71
	単価	1,308	2,128	2,036	156
マダラ	数量	8,449	7,506	5,123	61
	金額	1,219	1,815	1,519	125
	単価	144	242	296	206
ヒラメ	数量	156	162	141	90
	金額	137	143	131	96
	単価	875	883	929	106
タコ類	数量	1,684	1,300	1,698	101
	金額	745	711	831	112
	単価	442	547	489	111

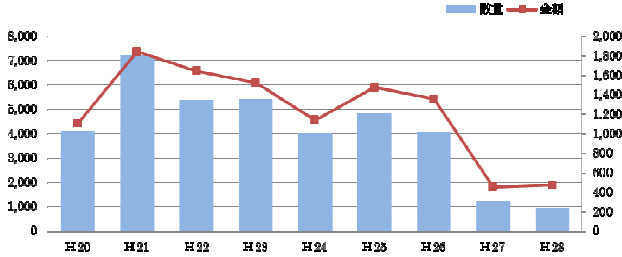
サケ漁獲量・金額（暦年、市場水揚）の推移



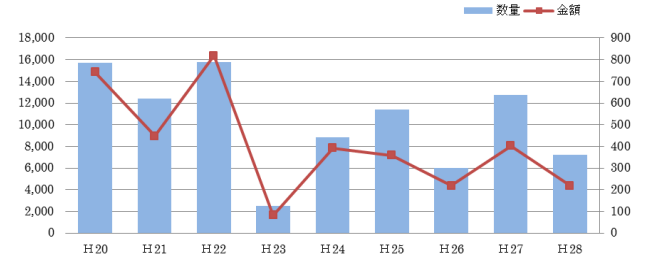
サンマ（棒受網）漁獲量・金額の推移



スルメイカ（いか釣り）漁獲量・金額の推移



イサダ（船びき網）漁獲量・金額の推移



2 課題及び対応策

(1) サケ資源について、震災による種苗放流減の影響は、平成30年度以降まで続く予想され、28年度も引き続き、海産親魚の使用等種卵確保対策が必要。また、回帰する資源量を維持するために、台風10号の被害による稚魚生産の減少分を補完し、全体の放流数を維持することが必要。

- ・種卵確保対策は、①河川そ上親魚の最大限の利用、緊急対策として②定置網で漁獲したサケの親魚としての利用（海産親魚の使用）、③定置網の漁獲抑制（垣網部分の短縮）の実施を計画、28年11月4日から全県での海産親魚の使用を緊急発動。
- ・早急な資源の回復に向け、増殖団体及び研究機関と協力して、健康な稚魚の放流の実現に取り組む。
- ・台風10号の被害による稚魚減少分を補完するために、4億尾放流を目標として稼働可能なふ化場が計画以上の生産を行うための協力体制を構築する。

(2) サンマやスルメイカ等の主要魚種において、資源量の減少や漁獲しにくい漁場形成が継続。

- ・漁業者による資源管理の取組みを支援するとともに、漁業共済の仕組みを活用した資源管理・収入安定化対策により減収リスクを抑制する。
- ・海況情報等の情報提供を継続して実施。